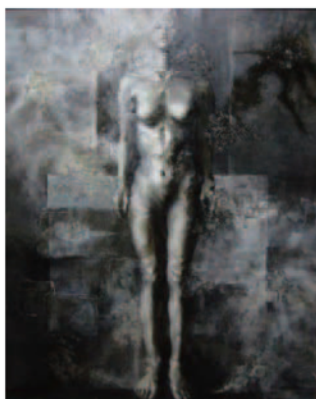




「ここに潜えよう」2012年 油彩、キャンバス 130×162cm



「目眩いた」油彩、キャンバス 130×162cm



「つちくれ」2000年 100号F 栃木県芸術祭奨励賞受賞作

「女性の美しさを描きたいわけじゃないんです」。そう語る古河原は、女性がさりげないポーズや表情をみせた瞬間を、スピード感溢れるタッチで鮮やかに生け捕り、キャンバスに定着させる。その一瞬には、次なるステップへの期待や予感が秘められ、鑑賞者の視線を画中へと引き寄せる。

「私が表現したいのは、人間の内に在る宇宙です。そこには、なまなましいまでのエネルギーが、混沌として渦巻いています。それが苦悩や絶望だったとしても、そこで終わらせたくない。人間の内に満ちるあらゆる欲を、ネガティブなものとして抑えるのではなく、受容し、抱きしめることで、希望ある未来へと繋いでゆきたいのです」

『清い欲』——。その欲望を、彼女はそう呼んでいる。

大学の卒業制作「つちくれ」は、彼女にとって記念碑的な作品だ。ドイツのアウシュヴィッツ収容所での体験記『夜と霧』に大きなショック

を受けた彼女が、「人間の存在とは？」という問いかけをキャンバスにぶつけ、無心に筆を走らせて描いた初めての大作だ。

原点となる「つちくれ」から10年以上が経ったいま、テーマは同じでも作風はだいぶ変化した。

モノクロームだった画面は、色彩豊かになり、さらさらしていた絵肌は、フラットな部分と触覚的な部分が入り交じった絵肌に変化した。その抑揚の効いた質感と複雑な色面構成が女性の背景に置かれ、女性のフォルムとせめぎ合うことで、求心力とメッセージ性は格段に強まった。描写も以前は細密的だったが、最近では適度な簡略化によって、線に一層の生命感が宿り始めた。素描をそのままタブローにしたような、鮮度と息づかいが伝わってくる。

今回の初個展では、これまでに制作した作品と新作が合わせて展示されるという。

古河原泉の等身大の「欲望」と「希望」のかたちが表現されるだろう。



Close Up Exhibition

古河原 泉 初個展

～ Color of desire～

【会期】 5月29日(水)～6月9日(日)

【会場】 Bunkamura Box Gallery

渋谷区道玄坂 2-24-1

TEL.03-3477-9174



こがはら・いずみ

栃木県宇都宮市生まれ。2000年宇都宮大学教育学部美術科卒業。同年、栃木県芸術祭奨励賞受賞。2003年から光風会に在籍、2004年を初めに、日展6回の入選を果たし、現在に至る。

『清い欲』のかたちを
女性像に託して描く



「そのときがいま」